

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
ハーベスト医療福祉専門学校		平成 20 年 3 月 31 日		杉本健三		〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6 (電話) 079-224-1777	
設置者名		設立年月日		代表者名		所在地	
学校法人摺河学園		昭和 23 年 3 月 31 日		摺河美代子		〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町 83 (電話) 079-224-1711	
目的		保育に携わり、人の成長に深く関わる者として、自らの人間性と専門性の向上に努め、倫理観に裏づけられた知性の発達と、確かな知識・技術を備えた人格形成を促す。また、豊かな感性と愛情を持った専門職業人として地域社会に貢献できる、資質の高い保育士を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼夜別)	全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数	専門士の付与	高度専門士の 付与	
教育・ 社会福 祉	社会福 祉専門 課程	リトミック保 育学科	2 年 (昼)	2,175 単位時間	平成 22 年 2 月 26 日付文部科 学省告示第 31 号	-	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		555 単位時間	1,350 単位時間	-	270 単位時間	-	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数	
100 人		54 人		6 人		17 人	
総教員数		22 人					
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前期：4 月 1 日から 9 月 30 日</li> <li>■後期：10 月 1 日から 3 月 31 日</li> </ul>			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>■成績表：有</li> <li>■成績評価の基準・方法について： 各科目所定の講義を 2/3 以上出席し ており、成績が 60 点以上の者を単位 認定している。</li> </ul>		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学年始め：4 月 1 日</li> <li>■夏 季：1 週間</li> <li>■冬 季：2 週間</li> <li>■学 年 末：3 月 31 日</li> </ul>			卒業・進級 条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進級条件としては、当該年度のすべ ての科目を修得すること。</li> <li>②卒業の条件はすべての科目を修得 すること。</li> </ul>		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>■クラス担任制：有</li> <li>■長期欠席者への指導等の対応：</li> </ul>			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課外活動の種類：</li> <li>■サークル活動：無</li> </ul>		

主な就職先	<p>■主な就職先、業界： 保育園、養護施設、認定こども園</p> <p>■就職率<sup>※1</sup>：100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup>： 100%</p> <p>(平成26年度卒業者に関する平成27年5月時点の情報)</p>	主な資格 ・検定	保育士
中途退学者の現状	<p>■中途退学者：8名</p> <p>■中退率：17.4%</p> <p>平成26年4月1日在学者：46名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者：38名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：進路変更、自己都合</p> <p>■中退防止のための取り組み：専門職像の理解を促すきめ細やかな教育相談</p>		
ホームページ	URL：http://www.harvest-school.com/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

実習先や業界団体の役職員、専門の講師を教育課程編成委員として委嘱し、実践的な職業教育の質を保証する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 5 月 1 日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
下山 治男	兵庫県理学療法士会前中播磨ブロック長
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
吉田 弘子	ヘルパーステーションだいたう 介護福祉士
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
正木 竜哉	瑠璃保育所 所長
福田 忠浩	姫路薬剤師会 副会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社 (ドラッグストア) 開発本部長兼経営企画室長
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野 実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
小寺 正人	ハーベスト医療福祉専門学校 教務部長

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 10 月 22 日 9:00~10:05

第 2 回 平成 27 年 2 月 6 日 9:00~10:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学校での学びを体験する中で、学生が乳幼児への理解を深めることのできる園・施設と連携する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習 I-1、I-2、II	習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と保育士にふさわしい態度を身に付ける。	認定子ども園はぎ保育園 認定子ども園ひまわり保育園 アメニティホーム広畑学園他
リトミック I、II	基本的な動きと知識を学び、リトミックを体験する。	高砂市立阿弥陀こども園他
ストーリーテリング II	幼い子どもが楽しむ絵本やお話を学び、ストーリーテリングを体験する。	姫路市立若草保育所

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教育理念を具現化し、その職責を遂行するために行う。職員研修は、新任・中堅・管理職研修からなる。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 27 年 7 月 1 日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社開発本部長兼経営企画室長
安積 秀幸	兵庫県播磨高等学校 副校長
平 勝彦	南駅前町 自治会長
牧鶴美智代	保護者
高田 明則	同窓会長 理学療法士
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

- ・企業等との指導者会議で、教育課程表などとともに配付する。
- ・学生募集対象高校の進路担当部に、募集資料とともに配付する。

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

## 授業科目等の概要

(社会福祉専門課程リトミック保育学科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			情報技術	情報化社会におけるパソコンの有用な使い方と、ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作を学び、今後のレポート作成やその他の文書・資料作成などに役立てる。	1 前	30	1		○	
○			倫理社会学	人間、自己、家族、社会、生命をキーワードとする、子どもに関連する話題を取り上げ、これらの話題を通して社会の中で生きる自己や人間の位置づけや立場、意味づけ、生きていることの意味について考えるきっかけを得る。	2 前	30	2	○		
○			国語表現法	国語の領域で語彙力や表現力の低下が大きな問題になっている。この講義において目的に応じ筋道を立てて適切に文章を書き・話すために必要な語彙・語句・語法を学びながら、文章作成の基本技法を身に付けさせる。また、この学習を通して、表現の楽しさを知るとともに日常の会話・報告書・論文・「漢検」「語検」に対応できる表現技法と言語能力を養成する。	1 前	30	2	○		

○			音楽	音楽教育において「聞く」という活動はとても大切である。基礎的な楽典を理解し、リトミックで使用する曲の拍子やリズムについて学ぶ。また、楽器の使い方についての知識を深め、様々な楽器に親しみ、幼児の合奏について理解する。基礎的な楽典を理解することで、感受性を豊かにする。	1 後	30	1		○	
○			キッズ英語 I	“保育現場で実践できる英語”を学習する。保育現場を舞台にしたテキストを通して、すぐに使える幼児への英語での声掛けや、こども向けの歌や詩、ゲーム等を楽しみながら学んでいく。同時に英文法の基礎知識と聴く、話す、読む、書く等の能力も向上させていく。	1 後	30	1		○	
○			キッズ英語 II	“保育現場で実践できる英語”を学習する。保育現場を舞台にしたテキストを通して、すぐに使える幼児への英語での声掛けや、こども向けの歌や詩、ゲーム等を楽しみながら学んでいく。同時に英文法の基礎知識と聴く、話す、読む、書く等の能力も向上させていく。	2 後	30	1		○	
○			保健体育 I	運動、栄養、休養、安全など健康についての理解を深め、生涯にわたって健康を保持できるような資質、能力を養う。	1 前	15	1		○	
○			保健体育 II	健康や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、体力の向上を図り、自身の健康の保持増進のための実践力を養い、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。健康な体・健康な精神(心)の大切さを意識させる。	2 後	30	1			○

○			保育原理	<p>I. 保育における原理・保育の本質について学び、保育所保育指針の基本となる理論や考え方を理解する。</p> <p>II. 保育の思想、制度の歴史と現状などの知識を学び、保育士の専門性について考察する。</p> <p>III. 保育内容の基礎と構成について学習し、保育指針に沿った計画を作成する。</p>	1 前	30	2	○		
○			教育原理	<p>幼児教育に携わるためには、人間形成の重大さを認識することが大切である。教育の基本的な役割と原理についての理解を深める。また、教育の歴史や、学校のしくみについての理解を深める。現代の教育問題に対して、児童期の教育及び保育に携わる者が果たす役割について考え、教育を広い視野から捉える。</p>	1 前	30	2	○		
○			児童家庭福祉Ⅰ	<p>児童家庭福祉の理念および歩みについて学び、さらに法律・制度・福祉機関・施設といったハード面と、児童家庭福祉のソフト面というべき児童家庭福祉サービスの現状と課題について学習する。そのうえで、児童家庭福祉の専門職としての保育士の役割や、相談援助活動についての理解を深める。</p>	2 前	30	2	○		
○			児童家庭福祉Ⅱ	<p>児童家庭福祉の理念および歩みについて学び、さらに法律・制度・福祉機関・施設といったハード面と、児童家庭福祉のソフト面というべき児童家庭福祉サービスの現状と課題について学習する。そのうえで、児童家庭福祉の専門職としての保育士の役割や、相談援助活動についての理解を深める。</p>	2 後	30	1	○		

○			社会福祉Ⅰ	少子高齢化の対策などから「社会福祉」は、保育士にとって今まで以上に密接な科目となった。保育や養護の場における事例から、現在、家庭と子どもがかかえる多様な課題と、社会の支援について考える。	1 前	30	2	○		
○			社会福祉Ⅱ	「社会福祉Ⅰ」で学んだことに基づき、人間の尊厳を尊重し、その尊厳を守るにふさわしい生活を援助していくことのできる、倫理観に支えられた福祉専門職者として活動していくことの必要性を認識し、学習する。	1 後	30	2	○		
○			相談援助	Ⅰ. 保育とソーシャルワークとの関連性を理解する。 Ⅱ. ソーシャルワーク全体像を理解する。 Ⅲ. ソーシャルワークの方法レパートリーについて理解する。	2 前	30	1	○		
○			社会的養護Ⅰ	Ⅰ. 社会的養護が必要となる児童問題の現状や背景を学ぶ。 Ⅱ. Ⅰをふまえて児童養護の体系と児童福祉施設が果たすべき役割を理解する。 Ⅲ. 児童福祉施設における養護の実際について学びつつ、保育士としての役割と支援内容を考える。	1 前	30	2	○		
○			社会的養護Ⅱ	Ⅰ. 「社会的養護Ⅰ」でも学びを詳しく理解する。 Ⅱ. 生活援助技術とその方法について理解する。 Ⅲ. 子どもの援助者としての保育士のあり方について考える。	2 前	30	2	○		

○			保育者論	「保育者とはどうあるべきか。」 「一人ひとりの子どもたちに、 保育者としてどう関わっていくか。」これらを考えながら、保育者に求められる資質、知識、技能、態度、また現代社会の多様なニーズに対応した保育のあり方など、将来保育者になるために必要なことがらを身につける。	1 後	30	2	○		
○			保育の心理学Ⅰ	生涯発達の視点と領域横断的視点から子どもの発達を理解する。	1 前	30	2	○		
○			保育の心理学Ⅱ	Ⅰ. 生涯発達の視点と領域横断的視点から子どもの発達を理解する。 Ⅱ. 保育現場における子ども理解とそれに基づく支援の実際を考える。	2 後	30	1	○		
○			子どもの保健Ⅰ	子どもの保健は、小児の心身の問題をはじめとして、栄養・生活・人間関係等の社会環境とのかかわりをもつ学問である。子どもの保健Ⅰでは、小児保健の基本から身体発育・生理機能・運動機能・精神発達等の心身の現状と問題を把握し、保育現場の実情に合わせた栄養・生活の基礎知識を習得する。	1 通	60	4	○		
○			子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅰで獲得した小児保健理論の知識を基礎として、広く保育の場において、様々な状況に対応できる実践力と応用的能力を養う知識と技術を習熟する。保育に必要な技術を習得するため、小児の健康状態の観察方法から身体発育の測定方法や養護技術・看護技術の具体的な実習を重ねる。	2 後	30	1	○		

○			子どもの食と栄養	<p>I. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。</p> <p>II. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。</p> <p>III. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p>	2通	60	2	○		
○			家庭支援論	<p>現代社会における家族関係および家庭生活の変容から、保育士の役割は保育現場のみならず、子育てを社会的に支援することが求められている。当講義では、家庭の意義とその機能を理解し、保護者とのかかわり方や援助技術を学ぶ。また子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解しつつ、多様な支援の展開や関係機関との連携を学ぶ。</p>	2後	30	2	○		
○			保育課程論	<p>保育課程の編成と指導計画の作成について理解し、計画・実践・省察・評価・改善の過程を実践に活かすことを目的とする。多くの具体例に触れ「保育課程」「指導計画」を作成し、記録をとおして保育の評価を学び、実践力をつける。</p>	1後	30	2	○		

○			保育内容総論	保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点を持つことを目的とする。「保育所保育指針」に示される保育内容の概要、歴史的変遷や基本的な考え方について学習する。さらに、具体的な保育の様々な切り口や実践事例をとおして、保育内容について学ぶ。	1 前	30	1		○	
○			保育内容演習:健康指導法	子どもが心身ともに健康で調和のとれた生活を営むために必要な基礎的知識及び理論の習得を目指すとともに、指導・援助の仕方などの保育者としての指導力を培う。心身の発育と発達、基本的運動習慣、運動あそび、安全教育、救急処置などを取り上げる。さらに保育における安全の概念と事故防止、潜在危機と事故防止のメカニズム、子どもの安全能力と事故防止などの実践方法や基本的生活習慣の形成を促す方法を身につける。	2 前	30	1		○	
○			保育内容演習:人間関係指導法	Ⅰ. 乳幼児期が、様々な遊びや活動を通して人と関わる力の基礎を作る重要な時期であることを理解する。 Ⅱ. 人との関わりに関わる発達過程を理解する。 Ⅲ. Ⅰ、Ⅱをふまえて、保育士として子どもをどのように支援するかを考察する。	1 後	30	1		○	

○			保育内容演習:環境指導法	子どもは、園内・園外の物的環境や人的環境、自然環境から大きく影響を受け、それら環境に好奇心と探究心を持って関わることで心身のより豊かな発達を遂げる。保育者自身が豊かな人間性を持ち子どもに関わっていけるよう、実習での学びや自身の成長過程の振り返りを交えて学習する。また、保育における環境とは何かを考えつつ、環境構成能力の向上を図る。	2通	30	1		○	
○			保育内容演習:言葉指導法	I. 乳幼児が望ましい人間形成をするうえで言葉の獲得はとても重要である。乳幼児がどのように言葉を獲得していくかを知り、子どもの言葉の発生と発達の過程を年齢別に理解する。 II. 話し方、聞かせ方など、適切な言葉の指導や援助の方法を学び保育者としての専門的対応力を身につける。	1前	30	1		○	
○			保育内容演習:表現指導法	幼児の生活や遊びの中での表現をどのように読み取るか、また感性や創造性を豊かにするための援助のあり方や保育者自身の役割の重要性について学ぶ。	2後	30	1		○	
○			乳児保育	I. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学び、保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 II. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。	2通	60	2		○	

○			障がい児保育Ⅰ・Ⅱ	保育のなかでの、障害児保育の位置づけや障害児保育の意味を理解する。そのうえで、障害をもつ子どもの発達特性を知り、その特性に合わせた保育のあり方を理解する。また、他の専門機関と連携を図り、保護者の育児支援のあり方について学ぶ。	1 後 2 前	60	2		○	
○			社会的養護内容	Ⅰ. 社会的養護の役割「権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活の確保に留まらず、心の傷を抱えた場合に必要な心身のケアや治療を行い、社会的自立までを支援すること」を理解する。 Ⅱ. 家族の再統合、養育機能の再生・強化といった、家族、地域に対する支援を理解する。	1 後	30	1		○	
○			保育相談支援	保育相談支援の意義について学び、保護者支援の方法や保護者との信頼関係の重要性について理解する。また、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えるとともに、保護者を支援するために必要な資質と指導性を身につける。	2 後	30	1		○	
○			音楽Ⅰ・Ⅱ	音楽の基礎知識やピアノ演奏の基礎を習得する。各自のレベルにあわせてピアノレッスンをする。正しい姿勢や手の形、指使いを学ぶ。声楽の授業では、正しい発声法を学ぶ。ピアノ演奏と弾き歌いの基礎を身につける。	1 通	60	2		○	

○			音楽Ⅲ・Ⅳ	「音楽Ⅰ」の学習を発展させて、保育に必要な音楽に関する知識やピアノ演奏技術を習得する。基本の伴奏パターンを学び、弾き歌いに活用できるようにする。ピアノ演奏技術、伴奏形、弾き歌いを学び、音感やリズム感を身につける。	2通	60	2		○	
○			図画工作Ⅰ・Ⅱ	幼児の視座に立った造形教育の在り方や豊かな感性、表現力を養うことの大切さを学び、保育士としての資質と指導性を身につける。	1前 2前	60	2		○	
○			幼児体育Ⅰ	保育園における“保育の中の幼児体育”の分野について、体育遊具を中心に、基本的な使い方と指導方法を学び、子ども達の健全な育成に貢献できる保育者となる。	1後	30	1		○	
○			幼児体育Ⅱ	幼児体育の基礎を基にして、生徒自身が前に出て実践的な指導をする。その保育内容について全員で話し合い、一人一人が指導力を養い、保育現場で力が発揮できるようにする。	2前	30	1		○	
○			保育実習Ⅰ-1	保育所における子どもの保育および養護の実際を体験し、子どもに対する理解を深めるとともに、保育および養護の理論と実践の関係について具体的に理解する。また、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と、保育者にふさわしい態度を身につける。	1後	80	2			○

○			保育実習 I-2	施設で働く保育士の養成を意図し、「保育実習 I-1」における経験、教室で学んださまざまな教科に関する個別の知識や技術を基礎として、保育所以外の児童福祉施設で実習することを通して施設養護に携わる保育士としての指導技術や知識を習得する。	2 前	80	2			○
○			保育実習 1-1 指導	保育所の役割をふまえ、保育実習の意義や目的を理解する。実習の計画、実践、観察、記録の方法や内容について具体的に理解する。子どもの人権と利益を考慮し、守秘義務について学び実習事後指導を通して課題を明確にし、実習の総括を行う。	1 前	30	1			○
○			保育実習 I-2 指導	I. 保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 II. 施設での子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 III. 社会的養護の理解をもとに、施設・地域の生活実態にふれて、支援のための知識、技術、判断力を養う。	1 後	30	1			○
○			保育実践演習	保育者に必要な社会的視野を広げ指導力を高めるために、少子・高齢化と福祉、家族のあり方、教育問題等、社会全体に関わるテーマの分析及び検討する。子どもへの指導という観点から発達段階に応じたその内容・方法・技術を具体的に学習しレポートを作成する。	2 通	60	2			○

○			発達心理学 Ⅰ	<p>I. 心理学の基礎概念を理解する。</p> <p>II. 発達論の概要を理解する。</p> <p>III. 幼児・自己を含む「人間」を理解する。</p> <p>IV. 乳児期から児童期に至る子どもの発達の概要について学ぶ。</p> <p>V. 心理学データの取り扱いの基礎について学ぶ。</p>	1 後	30	2	○		
○			発達心理学 Ⅱ	<p>I. 乳児期から児童期に至る子どもの発達の概要について学ぶ。</p> <p>II. 障害を持つ子ども、発達障害について学ぶ。</p> <p>III. 心理学データの取り扱いの基礎について学ぶ。</p>	2 前	30	2	○		
○			教育相談論	<p>子育てに不安を抱き、自信が持てない親への相談援助をすすめるために、子どもとその親（家族）が置かれている社会的環境と家族システムを理解する。また、様々な具体例について対応を考え、相談者に理解と信頼をもたらす手法を学ぶ。</p>	2 後	30	2	○		
○			生活指導技術	<p>子どもの健全な発育・発達を保障するための「生活習慣」や「遊び」に関する基礎知識を学び、年齢に応じた配慮事項を知る。また、子どもの生活を様々な視点からとらえ、子どもや保護者への教育的な関わり方や生活指導をしていく援助技術を習得し、「人と関わる能力を伸ばす保育」を追及する。</p>	1 通	30	1	○		

○			保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ-1での学習実践経験を生かし、習得した保育と養護の実際を総合的に実践しうる能力と保育者にふさわしい態度を身につける。保育士としての知識や指導技術をさらに深め、子ども観や保育観の確立をめざして保育実践をする	2 後	80	2			○
○			保育実習Ⅱ 指導	「保育実習Ⅰ」をふまえ、保育所の役割・機能、子どもの保育、保護者支援等について総合的に学ぶ。既習の教科や実習の経験を生かし、保育の実際を、指導の計画と評価を含めた具体的実践を通して理解を深める。	2 前	30	1			○
○			ホスピタリ ティ・デザイ ン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。基本の礼法、学生としての心得、人としてのマナー、社会のなかでのエチケット、職場でのエチケットなど、基本の動作やしぐさの大切さと重要性を理解し、実際に正しく行えるようにする	1 前	30	1			○
○			コミュニケ ーション学	「ホスピタリティ・デザイン学」で学んだことを基礎として、実際に様々な立場の人とかかわるなかで、自然に品位のある行動をとれると同時に、コミュニケーションをより円滑にできるようにすることを重視する。その上で、医療・福祉の現場で求められる“心の通い合う人間関係”を構築するためのノウハウやスキルを身につける。	1 後	30	1			○
○			ストーリー テリングⅠ	幼い子どもが楽しむ、絵本やおはなしについて、まず自分自身が楽しみ、喜びを得ること。次に、子どもにとっての意味を理解し、資料(絵本や昔話)を検討する目を養う。	1 通	30	1			○

○		ストーリー テリングⅡ	資料（絵本や昔話、幼年文学） を検討できる力をつける。語れ るお話を確実なものとする。	2通	30	1	○	
○		リトミック Ⅰ	Ⅰ. リトミックの指導者に必要 な、知識・指導法・技法を習得 する。 Ⅱ. 基本的な動きと知識を学び、 リトミックの楽しさを体験す る。	1通	60	2	○	
○		リトミック Ⅱ	Ⅰ. リトミックの指導者に必要 な、知識・指導法・技法を習得 する。 Ⅱ. より高度な動きと知識を学 び、リトミックの実践を体験す る。	2通	60	2	○	
○		自然保育	子どもを取り巻く環境の中で、 自然とのかかわりを通し健全な 心身の発達を促す大切さを学 ぶ。草花の生長や、四季の移り 変わりのあり様、自然の不思議 さや偉大さを肌で感じ、自然を 生かした実際の遊びなどを通し て、心に響く演習を行い、子ど もが自然の中で成長発達してい く過程の意義を学ぶ。	2通	30	1	○	
合 計				58 科目	2,175 単位時間			